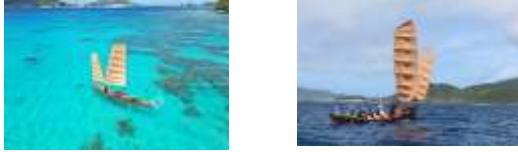


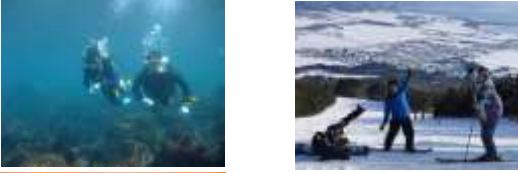
ゼミ活動(体験活動など):

4月～6月: 梅雨明け間もない沖縄県座間味島で開催される「サハニ帆漕レース」での完走を目標に、エーク(パドル)の制作や学内プールおよび海洋にて練習をおこなっています。また、所有している沖縄伝統漁船であるサハニ(2艇)を整備するために年に数回座間味島へ赴き、練習合宿を行っています。レースは梅雨明けの沖縄で、座間味島一那覇港間の約36kmを海峡横断します。

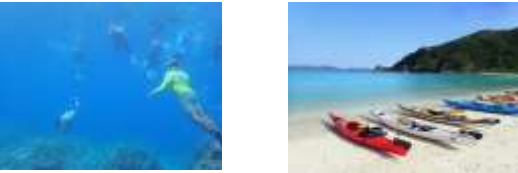
7～翌年2月: スクーバダイビングやフルマラソン、スノースポーツ等の合宿を行います



座間味一那覇間サハニレースの様子。千足研究室では2009年より参加しています



ダイビングやスノースポーツ、長距離走などノトリアスロン(趣味)



授業: マリンスポーツ実習(沖縄県渡嘉敷島)

卒業研究・修士論文・博士論文のテーマ

平成21年度
砂浜とコンクリートの全力疾走における下肢筋放電
飲酒が25℃の水浸中における体温および循環に及ぼす影響
短期間の海辺プログラムが4から7歳の子どもに与える影響
スポーツダイバーの環境保全行動に関する調査研究
海洋リテラシー-基本原則は教育現場でどのように取扱いが可能か

平成22年度
登山時における飲酒が生体に及ぼす影響
水中ホッケー競技の運動強度と行動分析に関する研究
海の自然体験活動に関する小学生保護者への質問紙調査
海の教育が参加者の海洋リテラシーに与える影響
シカヤッカの体験と期待及び満足に関する研究
市民トライアスロン(アインマン・ディスタンス)のレース分析

平成23年度
泳姿を含む授業中が大学生の海洋リテラシーに及ぼす影響
息こらえトレーニングが息こらえ時の心拍数変動に及ぼす影響
3か月間の息こらえトレーニングの効果に関する研究-息こらえ時間と肺機能に着目して-
飲酒が水温30℃における水浸中の体温に及ぼす影響
海水浴客の飲酒に関する調査研究-道子海岸における実態調査-
動揺性と体力水準との関係
海洋教育プログラムの評価および学校教育への導入可能性に関する研究(修士論文)

平成24年度
漁業者、鎌倉市、道子市の海で活動する人々を対象とした海面利用に関する研究
潜水漁業者における作業の実態に関する研究
息こらえトレーニングが息こらえ時の局所血流量とSpO₂に及ぼす影響
カッター試乗体験が参加者のカッターや海に対する意識および気分状態に与える影響
水辺活動を実施する際の学校教育機関と特定非営利活動法人の連携可能性-三浦半島における実態調査研究-
船酔いにおける広報活動の効果に関する研究
水辺活動体験が小学生の海洋リテラシーに及ぼす影響
都市部におけるシカヤック体験活動が参加者の心理状態に及ぼす影響

平成25年度
東京海洋大学海洋科学部1年次生における運動能力測定値の推移とカッター競技選手の体力について
潜水漁業者を対象とした操業実態把握の試み及び健康調査(修士論文)
大学生の海洋リテラシーに関する調査研究(修士論文)
アウトローカ-体験が参加者に及ぼす影響(修士論文)

平成26年度
水上オートバイ愛好者を対象とした調査研究
東京海洋大学海洋科学部1年次生における泳姿に関連する要因の検討
カッター活動の教育的効果に関する研究(修士論文)
海辺の体験活動が参加者の海洋リテラシーに及ぼす影響(修士論文)

平成27年度
スクーバダイバーの健康管理に関する調査研究
市販される呼吸補助トレーニング機器が呼吸機能に与える影響
キネシオテープ貼付による腰部痛、背椎痛軽減および腰部痛の圧痛の変化に関する研究(修士論文)
海洋スポーツ・レクリエーションにおける専門志向化と主観的幸福感・レジャー満足度に関する研究(修士論文)

平成28年度
船酔い対策が参加者に及ぼす影響についての調査研究(修士論文)
ヨット競技における各マウス回転位置とフィニッシュ順位の関係
回転刺激による作業能率変動についての研究

平成29年度
ウェアラブルセンサーによる低負荷運動後の心拍数評価は可能か
機能的な息こらえ潜水における生理学的反応に関する研究

令和元年度
胸背開閉の筋群に対するセルフストレッチングの有効性及び即時効果の検討(修士論文)
座間味島で行われているサハニ帆漕レースに関する研究

令和2年度
スクーバダイビングにおけるフィン硬度とフィン泳速の関係(修士論文)
日常的に自覚される自律神経系の不調は動揺性発症の危険因子となるか(修士論文)

令和4年度
学歴登壇(博士前期課程修了): エコツアーにおける熟練バドリングガイドのセルフマネジメント
寛井良乃介(学部卒業): 約7(フィッシング)の現状と問題および持続可能性に関する研究
今野龍大(学部卒業): 学生時代にセーリングを行っていた者のセーリング継続要因
鈴木早彰(学部卒業): 裾引浮体における安全対策の実態と課題

研究室の研究テーマ
1) 水辺での体験活動の教育効果に関する研究
2) 息こらえ潜水に関する研究
3) 飲酒が及ぼす影響に関する研究
4) 水辺での安全と健康に関する研究
5) 水上・水中・水辺を活用するスポーツ活動に関する研究
6) 海洋性レクリエーション、海洋利用に関する研究
など

研究プロジェクト(代表者のみ) / 研究・教育活動など



科学研究費補助金(研究成果公開促進費) 198046: ウォータースポーツ文献情報データベース
2007年4月1日～2008年3月31日
国内で行われた海洋スポーツに関連する文献を収集し、ファイリングするとともに、書誌情報と加工抄訳を作成する作業を随時実施しています。これらのデータをデータベースに登録し、WEBで検索できるようにしています。現在のコンテンツ総数は約1,700件です。(https://chiashi.jpにて公開)



科学研究費基盤(C)一般 - 19500540:
セーリング競技におけるコーチング支援システム開発のための実践的研究 2007年4月1日～2009年3月31日
Global Positioning System (GPS) 受信機を用いて、セーリング種目におけるコース選択に最も影響を与える風速及び風向についてのデータをレース海面で収集するとともに、航跡(軌跡)情報をレース後に選手に提供し、選手自身の主観的な判断・選択との間に差が生じているのかについて検討することを目的としました。



科学研究費基盤(C)一般 - 21500554:
海辺の体験活動による海洋リテラシーの獲得と評価に関する基礎的研究 2009年4月1日～2012年3月31日
海洋リテラシーの評価方法について検討するとともに、海辺の体験活動による海洋リテラシーの獲得についての調査を実施するものです。平成19年4月に成立した「海洋基本法」に謳われている「海洋に関する理解」を評価するための調査用紙を開発し、それを用いた横断的調査を実施しました。



科学研究費基盤(C)一般 - 24500811:
息こらえ潜水者の行動と生理学的側面から見た安全システムの提案 2012年4月1日～2015年3月31日
息こらえ潜水にて漁業を営む海女の潜水時における行動と生理学的なデータを収集・分析することにより、息こらえ潜水が身体に及ぼす影響を検討しようとするものです。息こらえ潜水についてのバイオメカニクスや生理学、水産学にも関わる学際的な研究として位置づけられます。



科学研究費基盤(C)一般 - 15K01516:
海洋自然体験への継続的参加によるライフスキル獲得に関する基礎的研究 2016年4月1日～2019年3月31日
海洋自然体験活動に継続的に参加することによるライフスキルの獲得について、長期継続的に指導を実施しているベテラン指導者と継続的に活動を実施している参加者を対象として質的および量的なデータを収集・分析することにより、ライフスキル獲得のモデルを構築し、海洋自然体験が日常生活に汎化する可能性を明らかにすることを目的としました。



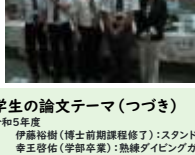
科学研究費基盤(C)一般 - 18K10922: 海洋文化復興運動が地域社会と地域経済に及ぼす影響
2018年4月1日～2022年3月31日
帆かけサニ復興運動の歴史的背景と経緯を明確にするとともに、帆かけサニ復興運動が地域経済に与えた影響についての経済学的分析と地域社会に与えた影響を考察する社会学的な研究を実施し、それらを総合的に分析することにより、海洋文化復興運動の意義や波及効果を明らかにすることを目的としました。



科学研究費基盤(C)一般 - 22K12586 エコツーリズムにおける熟練ガイドのセルフマネジメント
2022年4月1日～2026年3月31日
水圏を活用したエコツーリズムに携わる経験豊かなエコツアーガイドのセルフマネジメントについてレジリエンスエンジニアリングの視点から、システムをレジリエントにする要素としての能力や実践行動について参加観察および聞き取り調査、質問紙調査を実施し、得られたデータを量的・質的に分析することによって、その特徴と構造を明らかにすることを目的としました。



科学研究費基盤(C)一般 - 25K15696 サング礁域における持続可能なエコツーリズムのための海面利用調整と環境配慮行動
2025年4月1日～2028年3月31日
サング礁域を活用したエコツーリズムに関わる利害関係者や参加者における環境配慮意識・環境配慮行動の構造と特徴を明らかにするとともに、サング礁域の多面的な利用に關して、当該地域においてどのような管理が展開され、どのようなルールや制度によって海面利用調整が行われ、それがどのような意味や意義を有するのかについて追究することを目的としています。



International Conference of Sport, Leisure and Hospitality Management
台湾師範大学(台北市)で行われる国際学会に、可能な限り毎年参加して研究発表し、国際交流を実施しています。
そのほか、日本海洋人間学会、日本野外教育学会、日本スポーツ整復療法学会などに主体的に参画しています。

学生の論文テーマ(つづき)

- 令和5年度
伊藤樹樹(博士前期課程修了): スタンドアップバドリング(SUP)の海難事故及びSUP愛好者の安全意識に関する研究
幸野啓佑(学部卒業): 熟練ダイビングガイドのセルフ・マネジメント
佐藤新太郎(学部卒業): ボートレジャーの課題と可能性
- 令和6年度
寛井良乃介(博士前期課程修了): 遊漁における環境配慮についての意識と行動に関する調査研究
松本弘樹(学部卒業): 沖縄の海を訪れる訪日外国人のPULL要因に関する研究-旅行目的に着目して-
黒山真二(学部卒業): マリンスポーツ実習を通して受講生に見られる心理的な変容-キネシオテープと心理尺度に基づいて-
- 令和7年度
橋本 亮(博士後期課程修了): 青年期の非特異的腰痛と身体的要因の関係
松本 崇(博士前期課程修了): マリンスポーツ愛好者の行動、参加動機と満足に関する研究-沖縄と海南の比較-
橋本 心(学部卒業): 約りの海難事故とマリンスポーツ参加者の比較研究
橋本歩波(学部卒業): セーリング愛好者の自衛予防と環境問題に関する調査

(HPをご参照ください) chiashi.jp > 研究室紹介 > 所属学生と卒業生のページ

千足耕一(ちあし こういち) 兵庫県神戸市生まれ O型 おひつじ座

筑波大学 野外教育研究室で海のスポーツ、山のスポーツ、キャンプ活動を学ぶ。
前任校(鹿屋体育大学)では海洋スポーツセンター勤務
東京海洋大学に平成20年9月1日より赴任、学部生・博士前期課程・博士後期課程の指導にあたる
☆やる気のある学生を募集しております☆